

報告案件資料

＜再評価＞

多摩川直轄河川改修事業

令和8年9月11日

国土交通省 関東地方整備局

(再評価) 多摩川直轄河川改修事業 ※R7年度 河川整備計画変更

1. 目的

- 河川整備計画の目指すべき治水安全度の水準は、気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した年超過確率1/70～1/80の規模とし、流域からの流出特性や流下特性をふまえ、基準地点石原において河道整備により対象とする流量を7,200m³/sとして、洪水を安全に流下させることを目的とする。

2. 事業概要

- 事業概要: 堤防の整備、河道掘削、高潮対策、水衝部対策、高規格堤防等
- 事業期間: 令和8年度～令和37年度(前回 平成13年度～令和12年度)
- 全体事業費: 約1,836億円(前回 約1,869億円)

3. 概要図



整備メニュー	単位	多摩川	浅川	合計
河道掘削	万m ³	480	35.5	515.5
築堤対策	km	25.7	5.9	31.6
高潮対策	km	1.2		1.2
高水護岸整備	km	2.5	1.9	4.4
水衝部対策	km	3.4	2.3	5.7
高規格堤防	箇所	1		1
樋門整備			1	1
河川防災ステーション整備	箇所		1	1

凡例

- 河道掘削
- 築堤対策
- 高潮対策
- 高水護岸整備
- 水衝部対策
- 高規格堤防
- 樋門整備
- 多摩川緊急河川敷道路等
- 河川防災ステーション整備

4. 事業の進捗等

■ 堤防の整備

- 堤防の断面形状に対して高さ又は幅が不足している区間について、堤防の嵩上げ・拡幅を行う。



堤防整備の例
令和7年4月完成
▲左岸 世田谷区玉川地先

■ 堰改築

- 堰の改築として既存の堰を撤去して、床止めと帯工を新設した。



堰改築の例
令和7年7月完成
大丸用水堰

■ 河道掘削

- 洪水を安全に流下させるため、環境等を考慮した断面形状等で掘削を行う。



河道掘削の例



▲左岸 大田区東六郷地先

5. 事業の効果等

- 気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した年超過確率1/70～1/80の規模の洪水による災害の発生防止又は軽減。
- 計画規模を上回る洪水や整備途上において施設の能力を上回る洪水等が発生した場合においても、人命、資産、社会経済の被害をできる限り軽減。

6. 事業の投資効率性

※B,C: 現在価値化後

【全体事業】(今回)

総便益B : 約11,437億円
総費用C : 約798億円
B/C : 14.3

(前回 R4)

総便益B : 約57,844億円
総費用C : 約2,928億円
B/C : 19.8

※社会的割引率の参考比較値 22.2(2%)、29.0(1%)

7. 対応方針(案)

- 当該事業は、現段階においても、災害の発生防止又は軽減を図る目的における事業の必要性は変わっておらず、気候変動を踏まえて変更した多摩川水系河川整備計画に基づき、事業を改善継続することが妥当と考える。